

## 令和7年度第5回京都市市民参加推進フォーラム会議 摘録

### 【開催日時】

令和8年2月25日（水）午前10時00分～午前12時00分

### 【開催場所】

京都市役所分庁舎4階 第3会議室

### 【議 題】

- (1) 次期京都市地域コミュニティと市民参加に関するビジョン(以下、「次期ビジョン」という)の策定について(資料1)
- (2) その他報告事項

### 【出席者】

13名

(乾座長、並木副座長、白水副座長、荒木委員、今里委員、岡田委員、西澤委員、平井委員、平野委員、水本委員、松井委員、森田委員、竹田委員)

※並木副座長、白水副座長、竹田委員はオンライン参加  
千葉委員、中嶋委員は欠席

### 【議事内容】

#### 1 開 会

(長谷川室長あいさつ)

#### 2 議 題

##### (1) 次期ビジョンの策定について

<事務局>

(資料1に基づき説明)

<荒木委員>

内容について1点、伝え方について1点。

内容は6ページ第2章右側の図の「多様な主体」について、ここに当てはまらない人がいるのは良くない。「子育て世帯」の項目がなくなったことで、主婦の方や、病気で休職している人などが「自分が入らない」と感じる恐れがある。「子ども」や「高齢者」があるので、例えば、「大人」を加えるなど、誰もがどれかに当てはまる表現が良い。

また、上が個人、下が団体という並びなので、行政機関は団体側に入れる方が自然では。NPO・地域団体はまとめて構わないので、個人が包摂される表現を検討したい。

もう1つは、ここに記載する必要はないが、ビジョンの伝え方である。NPOで短時間ではあるが、パブコメを考えるワークをやった。小学生には難しいと想定していたが、中学生にも難しかった。来年度は、3分以内の短い動画や子ども向けリーフレットなどを作れると良い。そうすれば、学校の総合学習などで使ってもらえる可能性もある。

また、読んで「いいね」で終わらず主体的に考え行動につながるよう、「あなたならどう考える」「どこに関心がある」などの問いかけを入れられると良い。

#### <乾座長>

6 ページに「行政機関」を入れ、「子育て世代」と置き換わったことにより、どの主体にも属さない人が出てきてしまった。ここから漏れて「私は当てはまらない」と感じる人がでないようにする必要がある。また、荒木委員の提案のとおり、上の方は個人、下は団体のカテゴリーといった整理にしてはどうか。

#### <水本委員>

6 ページに新しく主体を追加しようとする場合に、スペースを考えると、注釈がだいぶスペースを取っている。イラストの統一性との兼ね合いもあるが、枠の外に記載するとか、もう少し上にずらすといったことも考えられる。

#### <西澤委員>

パブリック・コメントでの、若い世代のコメントの傾向、どんなキーワードが多かったかが気になる。逆にシニアはどうだったのかということも今後のために分かるといい。

#### <事務局>

分析したわけではなく、すべてのコメントを見た中での印象になるが、若い世代からは、「ゆるやかさ」「しなやかさ」「余白」に共感する、「つながる、支え合う、創り合う」というメッセージがわかりやすいという声があった。逆に 70 歳代の方からは、カタカナ語がわかりにくい、第 4 章の図がわかりにくいといった意見を聞いた。

#### <松井委員>

高齢者を集めて対話型パブコメを実施したが、全体的に肯定的だった。ウェルビーイング等の言葉が分からないという声が出た。

ビジョンで気になったのは、4 ページの分野別計画の例で「人権」が入っている点。特別なものとして捉えられないか。

#### <事務局>

パブリック・コメントとして意見があったことを受けて追加したものである。人権自体は、昨年 12 月までの京都市基本計画の政策 27 分野の一つとして記載されており、分野別計画も作成されているため、4 ページに記載されている他分野と並列になるのがおかしいことではないという認識である。

#### <乾座長>

産業、環境…など 27 政策分野と書く方法も考えられる。

<森田委員>

6 ページの「つながる・支え合う・創り合う」配置。①のつながりが上、支え合うが左、創り合うが右の方が読みやすいのでは。

<乾座長>

どこから入ってもよい連環の趣旨であるが、デザインを検討する必要がある。

<竹田委員>

13 ページ、「社会情勢の変化」中の平成のところに記載のある「地域以外のつながりも増加」は、その前の行の「つながりが薄くなる一方」と矛盾するため、「地域外のつながりは増加」の方が自然。

10 ページ、区 Hub と市 Hub が同じ色で違いが見えないのは意図があるか。

<事務局>

パブリック・コメントで、区 Hub と市 Hub がバラバラに見えるという意見があったため、同じ色に変更した。バラバラではなく連携して進めることを表現している。

<平井委員>

10 ページ関連。推進体制は、地域コミュニティ Hub が目玉だったのに図から消えて、分かりにくくなっている。第 5 章に書いてはいるが、推進体制として「何に注力するか」が見える方がいい。

また、市会議員の存在。地域では市会議員が地蔵盆や運動会に来て、市民と話している。市民参加のつなぎ役としてどこかに位置づけてもいいのでは。

<白水副座長>

まちづくり支援をしていた時に、行政機関だけがハブを作るのではなく、産官学民みんながハブを作るということは既にやっていた。既にあるハブも尊重してほしい。

<乾座長>

行政を中心に出し過ぎると「市民が主役」というのが後退する。一方で、行政は下支えだけでなく結節点の中に入っていく必要もある。3 章と 5 章のつなぎをどうするのかをしっかりと考える必要がある。

<並木副座長>

結節点という言葉の使い方について、ビジョンの 10 ページで急に「みんな結節点になれる」と言われてもイメージできない人もいる。例えば、図の 5 つの結節点のうち、2 つを行政にしてはどうか。

また、3 ページの行政に求められる役割のところ「互いに支え合い」という表現は違和感がある。例えば、「支え合いを創出し」としてはどうか。

<乾座長>

区 Hub・市 Hub を結節点として固定して描くと、他の結節点が見えなくなる懸念もある。

<今里委員>

行政の役割は大きく3つに分かれる。①プレイヤーとして現場に出る、②地域の場づくり・下支えをする区 Hub、③全市的に支える市 Hub がある。プレイヤー、区 Hub、市 Hub の3層で描くと分かりやすいのでは。SDGs の図を逆さまにしたようなイメージである。

<乾座長>

市 Hub と区 Hub は、一体的に進めていくとのことなので、多様な主体と市 Hub・区 Hub の2層でも良いかもしれない。議論のイメージは共有できているが、デザインとしてどう表現するかが課題。

<平井委員>

推進する区役所の人が、ビジョンを理解して行動できるのが良い。DX で市民が区役所に行かなくなるので、職員の役割をシフトしていく必要がある。

<事務局>

区役所は地域力推進室、市民総合窓口室、保健福祉センターの3つ。縦割りで分断されがちだったものを横につなぎ、まちづくりと福祉等をつなぐために地域コミュニティ Hub を作った。文章で説明は記載しているが、デザインで分かりやすくしたい。

<並木副座長>

推進体制の図が難しいのは、何のための体制かが見えにくいから。京都市ホームページの地域コミュニティ Hub の説明には「セーフティーネットの網の目を細かくして、こぼれていた人や課題を拾う」とある。課題解決だけではなく価値創造もする市民参加であるが、網の目のような表現がいいのでは。

<乾座長>

目指す姿を描くのか、推進の動きを描くのかで見せ方は変わる。

<白水副座長>

裏表紙の余白に問いかけやメッセージを入れるのもありではないか。

<荒木委員>

余白に入れる言葉として「あなたの居場所と出番はどこですか」のような問いもよい。

<岡田委員>

京都マラソンでは、任天堂がプラチナパートナーだった。企業がしっかりと行政に関わっていく官民連携が重要である。

<平野委員>

せっかくなので、このビジョンがワクワクするものになると良い。パブリック・コメントでは、ゆるやかさ、余白などがいい、というコメントがあったが、開いてすぐそのメッセージがあると良い。

市長の挨拶にそういった言葉を入れても良いのでは。

<乾座長>

ビジョンの裏表紙について、余白に書くと余白でなくなる問題はあるが、メッセージの記載を検討する。

10 ページの図の方向性としては、デザインを検討する。

ビジョンの完成については、座長一任という形にしたいがよいか。⇒異議なし

## (2) その他

<事務局>

報告事項の説明（資料なし）

## 3 閉会

<事務局>

以上をもって、令和7年度第5回京都市市民参加推進フォーラム会議を終了する。

以上